



HCAP 東京大学運営委員会

HCAP 東京カンファレンス 2015 報告書

2015 年 4 月 1 日

HCAP 東京大学運営委員会 9 期



本報告書について

本報告書は HCAP (Harvard College in Asia Program) 東京大学運営委員会 9 期が企画・運営した、「東京カンファレンス 2015」について報告することを目的としたものである。

目次

本報告書について	3
目次	3
代表挨拶	4
HCAP とは	5
HCAP 東京カンファレンス 2015 について	5
HCAP 東京カンファレンス 2015 協賛・協力	6
プログラム詳細報告	8~21
1 日目 (3/14) ハーバード生到着	8
2 日目 (3/15) 東京観光	8
3 日目 (3/16) 政治×テクノロジー (情報社会へのイントロダクション・サイバー空間における自由)	10
4 日目 (3/17) 文化×テクノロジー (まちづくりとテクノロジー・チームラボ株式会社企業訪問・パネルディスカッション)	12
5 日目 (3/18) 経済×テクノロジー (経済協力の深化と太平洋の将来)・JR 東日本企業訪問	14
6 日目 (3/19) 福島バスツアー	16
7 日目 (3/20) 交流会・Writing the Last Page of the World History Textbook	17
8 日目 (3/21) 茶道体験・高校生交流企画	19
9 日目 (3/22) 東京散策・ハーバード生帰国	21
HCAP 東京カンファレンス 2015 総括	22
HCAP 東京カンファレンス 2015 会計報告	24

代表挨拶

2014年の5月に結成されました HCAP 東京大学運営委員会 9期は、2015年3月14日から22日にかけて、活動の集大成としての東京カンファレンス 2015 を無事に開催致しました。ここに至るまで、数え切れないほど多くの個人・団体・企業にお世話になりました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

今年度の東京カンファレンスは、間に1泊2日の福島フィールドワークを挟みつつ、主に東京にて開催致しました。私どもが9ヶ月に渡って準備してきたカンファレンスでは、ハーバード生と共にレクチャーやディスカッション、企業訪問、東京観光、茶道体験、レセプションなど、幅広い企画が満載の濃密な9日間を過ごすことができました。その間、真面目な話も他愛もない話もし続けたハーバード生とは、互いに多くを学びあい、真の友情を築くことができましたと思います。最終日、空港にて円陣を組んだ後もみくちゃんになりながら別れを惜しんだことは、東京カンファレンスの成功を象徴していたのではないのでしょうか。

振り返れば、困難も少なくなかったものの非常に充実した9ヶ月間を過ごすことができました。HCAP9期が発足して間も無い頃から、ハーバード生が日本に来るという事実を最大限価値あるカンファレンスにまで昇華させていくためには何が必要なのか、本気で考えた6月。新歓合宿を経て、ハーバード大学本部に提出するアプリケーションの内容について毎日の様にミーティングを重ねた夏。妥協なきこだわりの結果、一度カンファレンスの内容を白紙に戻して、理念から考え直すことにした9月。組織体制を一新した10月。東京カンファレンスの内容詰めや渉外活動に本気で取り組み、徐々に実現に向かっていった11月からの3ヶ月間。ハーバードカンファレンスでの刺激的な経験を踏まえ東京カンファレンスの内容を最後まで再検討し続け、大詰めを迎えた2月、そして遂に東京カンファレンスを開催した3月。とにかく13人でがむしゃらに、ひたむきに走り続けてきた9ヶ月間でした。

こうして最後まで本気でこだわり抜いてきたからこそ、私どもは多くのものを学び、また得ることができたと思います。社会との関わり方。チームで1つのものをゼロから作り上げることや、フラットな組織での合意形成の難しさ。本気で相手と向き合うということの大切さ。完成度にこだわり続ける楽しさ。チームにいかにか貢献できるか悩み続ける経験。ハーバード生やアジア各国の学生との深い絆。互いの価値観の相違に気づき、背景を探り解決案を模索する過程を通して、ハーバード生のみならず、何よりも9期のメンバー同士がかけがえのない大切な仲間として認識され最高のチームになることができましたと思います。

大学1年生のうちからこのような貴重な学びの機会と可能性を頂けましたことは、偏に HCAP 東京大学運営委員会へご支援・ご協力頂いているすべての個人・団体・企業のお陰です。すべての方への感謝とともに、ここに東京カンファレンス 2015 のご報告を致します。

2015年3月末日

HCAP 東京大学運営委員会 9期

代表 堀澄紀

HCAP とは

Harvard College in Asia Program とは、米国ハーバード大学に本部を置き、ハーバード大学とアジア各国の著名な大学の学生が運営する学際交流プログラムである。将来のリーダーを目指す強い意志を持った各国の学生が、多様な学術・文化・交流体験に富んだ 9 日間を濃く、真剣に味わうことを通じて、相互理解を深め、未来に向けた友好関係を構築する。

本プログラムはアジア各国の学生の訪米とハーバード大学の学生の各国への訪問という 2 つのカンファレンスで構成され、特に日本での交流プログラムが東京カンファレンスと呼ばれる。私達 HCAP 東京大学運営委員会は伝統的に東京大学の 1 年生のみで構成されており、2005 年の設立以来、外務省・米国大使館をはじめ様々な方々からご支援を賜り、9 年連続でハーバード大学のパートナー校に選出されている。今年度も個性に富み、将来国内外で活躍する志を持った 13 名の東大生が 9 期メンバーとして選抜され、世界の諸問題に立ち向かうヒューマンネットワークを構築することを目標に、ハーバード生と本気で向き合うカンファレンスを実施した。

HCAP 東京カンファレンス 2015 について

<概要>

主催	HCAP 東京大学運営委員会 9 期
日程	2015 年 3 月 14 日（土）～2015 年 3 月 22 日（日）
参加者	東京大学学部生 12 名、ハーバード大学学部生 9 名
テーマ	Technology and Our Generation: From the Individual to the World

東京カンファレンスとは、HCAP 東京大学運営委員会が企画・運営を行う、東京を中心とした日本を舞台とする HCAP の交流プログラムである。

このカンファレンスでは毎年、ハーバード大学に設置された本部によってテーマが設定され、開催各地でそのテーマに基づき学術・文化・交流の三要素がバランス良く組み込まれたプログラムが行われる。今年度、HCAP 本部が設定したテーマは“Technology and Our Generation: From the Individual to the World”であった。このテーマの下、テクノロジーが急速に発展し、生活のあり方を大きく変えている今日において、私たちの世代がテクノロジーとどう関わっていくべきなのかを考えた。

また、私達は上記のテーマを尊重しつつ、“Writing the Last Page of the World History Textbook”というオリジナルのコンセプトも設定して東京カンファレンスを実施した。

このコンセプトの下で行われた企画は多様な視点から現代社会を切り取ったものであり、それら総体としてのカンファレンスを通して、私たちは現代社会を俯瞰してその直面する問題に向き合い、将来に向けての希望と責任を醸成することを目標とした。さらには、人と正面から向き合うことを重視し、企画では議論と体験の両方を通じて、価値観のぶつかり合いを引き起こすことも目指した。

HCAP 東京カンファレンス 2015 協賛・協力 (敬称略)

- 協賛 株式会社ベネッセコーポレーション Route H
駒場友の会
東日本旅客鉄道株式会社
HCAP Tokyo alumni
Harvard Club of Japan の皆様
ご支援感謝申し上げます。
- 江川雅子
杉本文秀
関成孝
長島雅則
頼成貴彦
黄 鍾圭
Tad Johnson
- 後援 日本国外務省
在日米国大使館
- 担当教員 東京大学大学院総合文化研究科 広域科学専攻相関基礎科学系 准教授 松田恭幸
- 企画協力
- ・「情報社会へのイントロダクション」企画
東京大学大学院総合文化研究科 超域文化科学専攻 教授 木村忠正
 - ・「サイバー空間における自由」企画
東京大学大学院情報学環 教授 山口いつ子
 - ・「まちづくりとテクノロジー」企画
株式会社博報堂 コンサルティング局 深谷信介
株式会社博報堂 クリエイティブ戦略企画室 鷲尾和彦
株式会社北一商店
株式会社伊藤園
森ビル株式会社
 - ・「チームラボ株式会社 企業訪問」企画
チームラボ株式会社 マネジメントチーム リクルーター 藤井見空
チームラボ株式会社 ブランドディレクター 工藤岳
チームラボ株式会社の皆様

・「パネルディスカッション “Democratizing Creativity”」企画

NPO 法人 ARTment CEO 石崎弘典

IDEO Tokyo リードデザイナー 石川俊祐

株式会社カブク インダストリアルデザイナー 横井康秀

スタジオ仕組 代表 河内晋平

在日米国大使館 広報・文化交流部 三橋乃佑里

・「経済協力の深化と太平洋の将来」企画

東京大学大学院総合文化研究科 国際社会科学専攻 教授 古城佳子

・「JR 東日本 企業訪問」企画

東日本旅客鉄道株式会社

執行役員・復興企画部長 熊本義寛

復興企画部 課長 藤澤匡章

総務部 課長 内田裕久

総務部 安彦仁

・「福島バスツアー」企画

いわき復興支援・観光案内所

石川弘子

小高観光協会

島尾清助

岩淵康民

細谷順子

浜通り交通株式会社 経営戦略室 萩原登

浜通り交通株式会社 運行管理部 高木堅士

・「Writing the Last Page of the World History Textbook」企画

東京大学大学院総合文化研究科 超域文化科学専攻 准教授 John O'Dea

・「茶道体験」企画

東京大学裏千家茶道同好会の皆様

・「高校生交流」企画

株式会社ベネッセコーポレーション 高校生事業部 尾澤章浩

T's 渋谷フラッグカンファレンスセンター

その他ご協力

東京大学 渉外本部 副本部長 吉田洋一

東京大学 渉外本部 渉外基金課 泉泰行

東京大学教養学部 特任准教授 岡田晃枝

東京大学教養学部等学生支援課 学生支援係 鈴木智香子

Harvard Club of Japan 代表 Carl Kay

国立オリンピック記念青少年総合センター

東京大学駒場コミュニケーション・プラザ

プログラム詳細報告

東京カンファレンス 2015 のプログラム詳細について、時系列に沿って以下に報告する。

1 日目：ハーバード生到着

<ハーバード生到着>

1日早く到着した1名を除き、8名のハーバード生がこの日東京に到着した。宿泊先となるオリンピックセンターへの到着が深夜となったため特に企画は行わず、自由にハーバード生と東大生が歓談できるようにした。1月に開催されたハーバードでのカンファレンスですでに友人となっていた者同士は再会を喜び、またこの日がハーバード生と初対面となった者も積極的に交流していた様子が印象的だった。



2 日目：東京観光

<東京観光(明治神宮・浅草寺・竹下通り・東京タワー)>

日時：3/15 終日

場所：明治神宮・浅草寺・竹下通り・東京タワー

■企画内容

・東京の地下鉄網を十二分に活用しつつ、一日かけて東京の観光名所を参加者全員で回った。

■企画目標

- ・ハーバード生に東京の伝統文化・サブカルチャーを体験してもらい、日本文化をより深く知ってもらうこと。
- ・東京の街を歩きながら多くの会話をし、多くの体験を共にする中で、両校の学生の親睦を深めること。





■企画詳細と総括

この日は一日、自由時間と集団行動を織り交ぜつつ全員で東京を観光した。地下鉄網を駆使し、東京を東西に移動して観光名所を回り、夜には東京タワーから東京の街を一望しながら一日を振り返った。全体を通じて、ハーバード生は東京を十分に知りつつ楽しんでいただけたようだった。

①明治神宮

東京観光の一日は、明治神宮からスタートした。大きな鳥居から始まり、日本酒の酒樽、お清めの水、日本風の結婚式、おみくじ、絵馬など至る所にちりばめられた日本文化にハーバード生は興味を示し、東大生に疑問をぶつけ、時には自ら見よう見まねで体験していた。東大生は、ハーバード生の知的好奇心の強さに驚かされると共に、彼らに説明する中で日本文化への理解を深めている様子だった。

②浅草寺

浅草のお好み焼き屋で昼食をとった後、浅草寺周辺を散策した。浅草寺へと続く仲見世通りには人も店も多く、ここではグループに分かれて自由行動とした。扇子や浴衣、髪飾りなど日本らしいお土産を買うことに夢中になる者、人形焼きや甘酒などの食べ歩きに夢中になる者など、それぞれが思い思いに日本を満喫していたのが印象的だった。

③竹下通り

東京の伝統的な側面に焦点を当てたここまでは打って変わり、若者の街原宿に足を運んだ。休日の昼下がり、ハーバード生も人の多さに初めは圧倒されていたものの、すぐに慣れ、プリクラを撮り、洋服や雑貨を買い、クレープを食べるといった形で日本の若者たちと同じように原宿を楽しんでいた。

④東京タワー

観光の最後には東京タワーに上り、東京の夜景を眺めた。その日に訪ねた街を上から眺めつつ、印象に残ったことなどについてお互いに語り合い、その日1日を振り返った。

全体を通じて強く感じたのは、ハーバード生は日本を楽しむことも上手であったということである。どの街にも外国人観光客は多く見られたが、持ち前の知的好奇心の強さもあり、その誰よりもハーバード生は日本を満喫しているように見えた。また、東大生にとっても、普段生活する東京を旅行者のような視点で見つめ直し、新たな発見をすることができ、非常に価値のある1日となった。



3日目：政治×テクノロジー

<情報社会へのイントロダクション>

日時：3月16日（月）10:00~12:30

場所：東京大学駒場キャンパス 21KOMCEE West

■企画内容

- ・東京大学大学院総合文化研究科の木村忠正教授に情報社会に関する特別講義を頂戴した

後、東大生が「政治×テクノロジー」に関するプレゼンを行い、全体でディスカッションをした。

■企画目標

- ・テクノロジーが現代社会にどのような影響を及ぼしてきたか、今後どのように変化していくと考えられるかについて、政治経済文化をふくむ広い視点でその概要を掴むこと。
- ・現代社会に置けるテクノロジーと政治の関係に関する考えを深めること。

■企画詳細と総括

本企画は、今年度の東京カンファレンス最初の学術企画である。テクノロジーの観点から「世界史の最後のページを書く」ように現代社会を俯瞰したい、という東京カンファレンス全体の目標を達成するための出発点として、現代社会においてテクノロジーはどのような役割を果たしているのかを広く学ぶことを目標とした。

企画前半のレクチャーパートでは木村忠正教授に全面的なご協力をいただき、"Where We Are, How We Have Got Here and Where We Are Heading?" という特別講義を頂戴した。情報化がいつからどのように進んできたのか、それは産業構造や人々の生活、考え方にどのような影響を与えたのかについてお話しいただいた。物心がついた頃からあらゆる電子機器や情報システムに囲まれて生きてきた東大生・ハーバード生にとって、情報化が進む前の社会を想像することや、情報化のもたらした変化とその行く先を考えることは、困難ながらも貴重な体験であった。

企画後半は、弊団体メンバーから日本におけるネット選挙の現状に関するプレゼンテーションをした後、日本においてネットを用いて選挙活動を活発化させる方法を議論した。議論はネット選挙にとどまらず、学生の政治意識の日米差や、大学での学生選挙の実体験にもとづく政治観など、多岐にわたった。

全体を通して、情報社会に関する知識をインプットすることも、お互いに刺激を与え合いながら「政治×テクノロジー」に関する考えを深めることもでき、有意義な学術企画第一弾となった。



<サイバー空間における自由>

日時：3月16日（月）15:00~17:30

場所：東京大学本郷キャンパス工学部2号館

■企画内容

- ・東京大学大学院情報学環・学際情報学府の山口いつ子教授にサイバー法に関する講義を頂いた。
- ・その後、グループに分かれてテクノロジーの発展とプライバシーに関するケーススタディおよびプレゼンテーションを行った。

■企画目標

- ・「政治×テクノロジー」に関する知見を深めること。特にテクノロジーの発展とともにプライバシー概念がどう変化したか、現代において、他の要素とのバランスをとりながら人々の私的領域を守るためには何が必要かを考えること。

■企画詳細と総括

午後は「政治×テクノロジー」に関する企画を通して、更にこのテーマに関する学習およびディスカッションを深めることを目標とした。本郷キャンパスに移動し、情報法をご専門とされる山口いつ子教授に、サイバー法と個人のプライバシーに関する講義を頂戴した。プライバシー概念の変化や日米欧の法制度の違いについての講義は双方の大学生にとって非常に興味深いものであり、講義の後にも教授に質問をつづける様子が見られた。

企画後半はグループに分かれてケーススタディおよびプレゼンテーションを行った。忘れられる権利、ビッグデータ、表現の自由、監視社会化など、身近かつ現代社会を生きる者として避けられないトピックを扱い、山口教授からご助言をいただきながら、企画前半のレクチャーや個人の経験、知識をもとにした多角的な議論が行われた。文化や制度が違う社会に生きる学生との慣れない分野の議論はとても刺激的で、互いに自分たちだけでは気付きにくい社会問題認識や問題解決の視点を知ることができた。また、プレゼンテーションはグループディスカッションの内容を共有するにとどまらず、学生間で質問や意見が飛び交う活発なものとなった。



4日目：文化×テクノロジー

<まちづくりとテクノロジー>

日時：3月17日（火）10:00~13:00

場所：虎の門9 森ビル



■企画内容

・博報堂の深谷様と鷲尾様に、人間の文化の土壌となる「都市」についてのお話を伺い、ハーバード生と共に未来の都市づくりについてのアイデアを考えた。

■企画目標

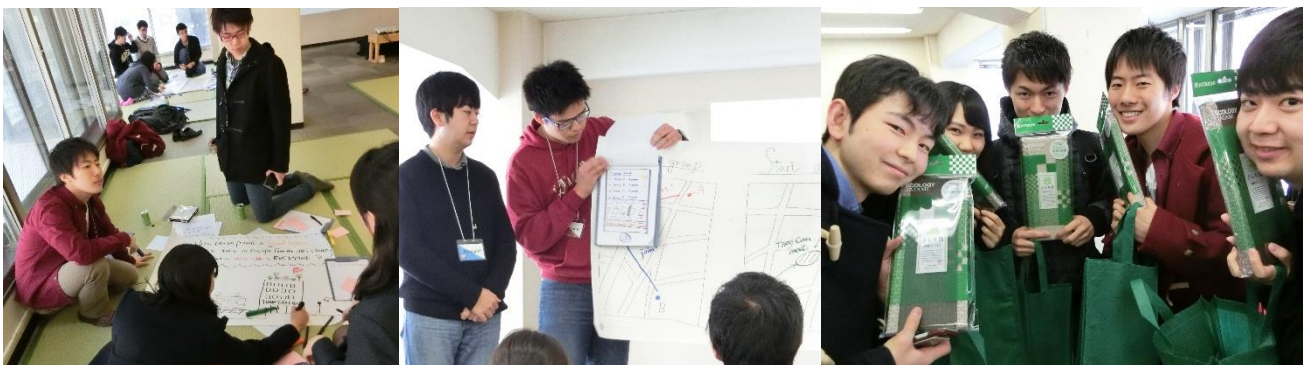
- ・テクノロジーによって、どのように町づくりが変化し得るのか考えること。
- ・どのようにテクノロジーを用いれば、理想の都市を実現できるのか考えること。

■企画詳細と総括

第一部では、博報堂の社員の深谷様と鷲尾様の都市に関するお話を伺った。最先端テクノロジーをどのように町づくりや町の運営の中に活かしていくのか、どのように町づくりに向き合えば、より人に寄り添った、理想的な町づくりが可能になるのかについて伺った。お二方の経験や考え方に基づき「テクノロジーを町づくりの中に活かしていくには、まずは人々のテクノロジーに対するマインドセットから変化させていく必要がある」という今までの私達になかった視点を与えていただいた。

第二部では、実際にハーバード生と東大生との間で都市をより良いものにするアイデアのもととなるクリエイティブ・クエスチョンを考えるワークショップを行った。自分達が暮らす町について改善したい点や疑問に思う点を洗い出し、新しい都市を作る時の芽となるような「問い」を考えた。この際に、どのようにテクノロジーを用いることが出来るかを念頭に置いて考えた。

この企画では、「街中で見知らぬ人と交流し、新たに友人になることのできる機会がないのはなぜだろうか、どうすれば実現できるのだろうか」というような、日本の学生だけでは思いつかないような疑問やアイデアがハーバード生から出てくるのが、とても興味深かった。また、東京で育った東大生と、ニューヨークで育ったハーバード生から、同じような都市に関する意見がそれぞれ出てくるなど、異なる点だけでなく、類似点を見出すこともできた貴重な機会となった。



<チームラボ株式会社 企業訪問>

日時：3月17日（火）14:00~16:00

場所：チームラボ株式会社

■企画内容

- ・チームラボ株式会社様に本社を訪問させていただく。社員の工藤様よりお話を伺い、実際に作品を見せていただき、社内を見学させていただいた。

■企画目標

- ・普段身近に感じる機会の少ない、テクノロジーを用いた最先端アートに触れ、その背景にある作成者の意図を知ること、アートとテクノロジーの融合によって、どのようにアートが変化したのか、これからどのように変化していき得るのか、実際に作品を目で見て感じ取ること。

■企画詳細と総括

本社に伺い、まず初めに社員の工藤様に実際に作品の映像を見せていただきながらお話を伺った。東大生の多くは以前からチームラボの作品を見たことがあったが、ハーバード生は初めての体験だったようで、次々と驚きと感動の声が上がった。さらには、積極的に質問の手が上がるなど、目新しいアートに対して興味を示す様子が見られた。普段身近に感じる機会の少ない最先端アートという分野に、自分達よりも事前知識のないハーバード生と共に触れることが出来る機会を持つことが出来たことで、改めて新鮮な目でアートを見つめ直すことが出来た。さらに、普段は目にすることのできないアート制作の裏側を社員の方に紹介していただくことで、私達に感動をもたらしてくれるテクノロジーを用いたアートも人の手があってこそ実現し得るのだと実感することが出来た。

<パネルディスカッション “Democratizing Creativity”>

日時：3月17日（火）17:30~20:30

場所：アメリカンセンターJapan



■企画内容

- ・デザインやアートに関する仕事に携わる方をパネラーとして、芸大生や HCAP 外の東大生をゲストとしてお招きし、パネルディスカッションを行った。
- ・パネラーの方、芸大生、東大生が自由に歓談できる交流会を開催した。

■企画目標

- ・東大生とは方向の異なる、アートという方面に特化しているアーティストの方やデザイナーの方、芸大生と意見を交わすことで自分達にはない新しい視点を得ること。
- ・最前線で活躍するアーティスト、デザイナーの方にお話を伺うことで、テクノロジーによってアートやデザインがどのように変化しているのかの最新の実際の状況を知ること。

■企画詳細と総括

第一部では IDEO 東京のデザイナーの石川様、株式会社カブクの横井様、NPO 法人 ARTment 代表の石崎様をスピーカーにお招きして、パネルディスカッション方式でお話を伺った。パネルディスカッションでは、石崎様から私達 HCAP のメンバーに何度か質問を投げかけてくださる場面もあり、私達一人ひとりが考えていることを共有する機会ともなった。"Creativity とは何か"という問いに対しては、難しく正解のない問いながら、各自が自分自身のバックグラウンドに照らし合わせて考え、その考えを共有することが出来た。

第二部では、スピーカーの方と弊団体メンバー、HCAP 外の芸大生、東大生を交えて、自由に歓談することのできる交流会を実施した。ハーバード生だけでなく、他の日本の学生とも意見を交わすことで、個々人の考えや興味分野が、国の差異以上に、それまでにどのような経験を経てきたか、どのような環境で育ったかに規定を受け得るということに気付くことが出来た。

5 日目：経済×テクノロジー、JR 東日本企業訪問



<経済協力の深化と太平洋の将来>

日時：3月18日（水）9:00~12:00

場所：東京大学駒場キャンパスコミュニケーションプラザ北館2階

■企画内容

- ・東京大学の国際関係論・国際政治経済学を専門とされている古城佳子教授から TPP・RCEP に関する講義を頂いた。
- ・班に分かれ東大生・ハーバード生によるディスカッションを行い、最後に全体へとその経過を共有した。

■企画目標

- ・テクノロジーが可能にした人や物の移動、それによるグローバル化が世界経済のあり方にどのような影響を与えたのかを、現在話題となっている日米間の TPP 問題を例にとり、うかがい知ることが目的であること。



■企画詳細と総括

TPP や RCEP といったアジア・環太平洋地域における貿易体制のあり方について、東京大学で国際関係論・国際政治経済学を専門とされている古城佳子先生から講義を頂戴し、現在の国際情勢や地域的結合の状況と絡めつつ様々な角度から解説していただいた。

日本で交渉の一挙一動が逐一大々的に報道され、国内世論でも賛否が分かれ議論の的となっている TPP 問題だが、知っているようで実は知らなかった知識も多くあり、新しい視点や問題意識からこの外交問題を捉える機会となった。

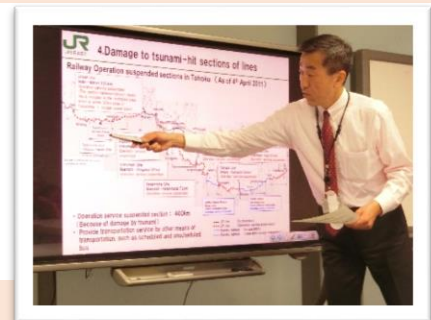
一方で何人かのハーバード生にとってはなじみの薄い問題であったようであり、そこからある問題に関する日本とアメリカの間の見方の違いや、相手国から見た自国の外交上の位置付けについても、各人新たな知見を得ることができたようであった。

その他にも、議論の過程においては、日米それぞれにとっての国益とは何なのか、それぞれ政府の意図は何なのか、それに対して国民はどう反応しているのか等にも話は及び、米国のトップレベルの学生がこのような問題についてどのような考え方を持っているのかを知る機会となった。

<東日本旅客鉄道株式会社 訪問>

日時：3月18日（水）14:00~16:00

場所：JR 東日本株式会社本社



■企画内容

- ・東日本旅客鉄道株式会社の熊本様から、東日本大震災により東北地方の線路・車両等に大きな被害を受けた JR 東日本の、企業としての災害時の対応、復興への取り組みに関するお話を伺った。

■企画目標

- ・原子力発電という科学技術が一つのファクターとして大きな影響を与えた東日本大震災を多角的に理解するための最初の企画として、震災による被災企業の立場からの取り組みを知ること。

■企画詳細

東日本旅客鉄道株式会社社員の方から、東日本大震災の際に東北地方を中心に線路や車両等が受けた大きな被害とその対応、またその後の復興のための取り組みについてお話を伺った。

津波により線路の外へ転がった車両や、跡形もなくなった駅舎の写真を見た他、常磐線など現在も未だ復旧していない路線が存在し、復興は決して済んでいないという現状について知った参加者は衝撃を受けているようであった。しかし同時に、これだけ広い地域に電車を走らせている JR 東日本が乗客から一人の死者も出さなかったということに対して参加者はみな驚かされ、それだけに日常から行われている取り組みや当日の対応がどのようなものだったのかは興味深く感じられた。

福島訪問を直後に控えた復興企画の中の第一弾であったこの企画は、震災について問題意識を持つ東大生だけでなく、震災直後以降東北の現状を知る機会の少なかったハーバード生一人一人に対しても、震災がどれだけ広く、深く日本社会に影響を与えたのかの一端を覗かせたようであった。

6日目:福島バスツアー

<福島バスツアー>

日時：3月19日（木）10:00~19:00

場所：福島県いわき市久ノ浜町・国道6号線・福島県南相馬市小高区



■企画内容

- ・久ノ浜や小高でフィールドワークを通して福島の現状を確認し、被災者の方々のお話を伺った。

■企画目標

- ・被災地見学や被災者の方々のお話を通じ、私達の、科学技術がより発展していく将来の社会を担う者としての当事者意識を養うこと。

■企画詳細と総括

①久ノ浜フィールドワーク

語り部さんに説明をしていただきながら、町はずれの小高い丘から海岸に接し津波による甚大な被害を受けたのち、復興作業がまだまだ続く久ノ浜町を一望したり、災害によって操業を停止した水産処理工場がある港を視察したりした。多くの地元の方々がフィールドワークに付き添ってくださり、被災者への心理的なケアが足りていないことなど、思いのたけを伺った。

②浜風商店街見学

福島で最も早く復興がなされ、10余りの店舗が並ぶ浜風商店街を見学した。

商店街内の情報館で町が津波に襲われた際に撮影された多くの写真を見せていただき、ハーバード生、東大生ともに震災の恐ろしさを痛感させられた。その一方で、通りでお茶を配ってくださる地元の方々からは少しでも地元を盛り上げよう、そして私たち学生をもてなし少しでも災害について伝えようとなさる意気込みと気遣い、福島の将来に対する希望も感じる事が出来た。

③小高でのレクチャー及びツアー

ここでも語り部さんに小高区のふれあい広場でレクチャーをしていただいたのち、バスでの小高市ツアーを行った。レクチャーでは、災害によって町民が去り、戻る人が少ない中で、伝統的な行事を敢行することなどで町おこしをしようとする小高区の方々の奮闘について学んだ。語り部さんの言葉の端々から復興に対する気概が感じられた点が印象的であった。

ツアーでは津波の被害を受けた田畑や、一階部分が崩れ去ったままの家屋を視察した。さらに、除染で生じた放射性廃棄物の仮置き場をごく近くから見学し、復興がなかなか進まない小高区の現状を目の当たりにした。

④総括

ハーバード生、東大生ともに終始、災害の悲惨さと被災者の方々の復興への強い意志を感じ、震災や津波、原発事故の生々しい爪痕を目の当たりにし、より深く考えるきっかけとなった。

7 日目：交流会・Writing the Last Page of the World History Textbook

<自由時間―築地で朝食>

この日は午前中が自由時間であったので、ハーバード生がかねてから訪れたいと言っていた築地市場に向かった。

魚だけでなく様々な食べものや日用品が扱われている活気に満ちた市場を、ハーバード生は大いに楽しんでいた。朝ごはんは寿司や海鮮丼を美味しそうに頬張るハーバード生を見るのは、日本人としてとても嬉しい瞬間だった。



<東大生×ハーバード生交流会>

日時：3月20日（金） 12:30～14:30

場所：ASTERISK 1103

■企画内容

- ・一般東大生 18 名を交えて、立食パーティーを行った。
- ・パーティー終了後は、全員で渋谷に繰り出し、ハーバード生を案内しながら渋谷の道玄坂や 109、センター街などで自由に観光・交流を行った。

■企画目標

- ・より多くの東大生に、ハーバード生と仲を深め、価値観を語り合う機会を持ってもらうこと。
- ・ハーバード生に自由に東京を楽しんでもらうこと。

■企画詳細と総括

立食パーティーでは特別に企画を設けることはせず、HCAP 東大生、一般公募の東大生、ハーバード生で自由に歓談を行った。HCAP 外から参加した東大生はみなハーバード生との交流に非常に積極的で、終始にぎやかで笑いの絶えない会となった。特に、4 日目のパネルディスカッション企画と合わせて HCAP 外の東大生は 4 日目の段階からさらに仲を深めることができた様子で、また、立食パーティー後の渋谷観光では HCAP メンバーがいなくても HCAP 外の東大生とハーバード生だけで遊びに行く人達も出てくるなど、短い時間ながら密な交流が実現できたようであった。

渋谷観光では、ハーバード生はユニクロで買い物をしたい人もいれば日本らしいお土産を買いたい人、ただ歩き回りたい人や 109 でウィンドウショッピングをしたい人など様々であった。しかしこのように HCAP 外の東大生が積極的に動いてくれたおかげで、ハーバード生を小グループに分けて案内することが可能になり、HCAP 東大生だけではできなかったであろうハーバード生一人一人のやりたいことに沿った満足度の高い観光をすることができた。また、観光時間の後半には、ハーバード生と HCAP 外の東大生の一部が観光するのも忘れて道端で日々の生活や考えていることなどについて語り合っている様子も見られ、短い時間ながら深い交流を実現することができたと思う。

<Writing the Last Page of the World History Textbook>

日時：3月20日（金） 15:00～16:30

場所：東京大学駒場キャンパス 21KOMCEE West



■企画内容

・HCAP 以外の東大生も交え、テクノロジーが現代社会の政治・経済・文化にどのような影響を与えているのかについて、側面ごとに分かれてディスカッションを行い、その後、模造紙などを使いながら内容を全体に共有した。

■企画目標

・一週間の議論と経験を振り返りつつ、私達がこれから創り率いていく時代を、世界史の教科書の最後のページとして包括的に議論し、東京カンファレンス 2015 の集大成とすること。

■企画詳細と総括

交流会に引き続き、10名の東大生を交えて3グループに分かれ、「テクノロジー×政治」「テクノロジー×経済」「テクノロジー×文化」のそれぞれのテーマでディスカッションを行った。

テクノロジー×政治の班では、ネット選挙を事例に、テクノロジーが政治にどのような影響を与えているかを考えた。HCAP メンバー以外の東大生からの新たな視点の提供もあり、3日目の「情報社会へのイントロダクション」企画での議論よりもさらに深まった興味深い議論になった。

一方テクノロジー×経済の班では、原発問題にはじまり、教育やマーケティング、モノ作りなどテクノロジーによって変化する現代社会の様々な分野をとりあげた。テクノロジーは使い次第で善悪が決まるのであり使い方に細心の注意を払わなければならないというのはもちろんのこと、基本的な生活のニーズが容易に満たされる現代社会では、人間の本当の幸せとは何かを考えた上で新たなテクノロジーの活かし方を生み出していくような創造性が必要になるのだということを、議論を通して実感できた。これは、4日目のパネルディスカッションで生まれた議論の延長でもあった。

また、テクノロジー×文化の班では、テクノロジーが現代社会に与える変化を Creating、Spreading、Learning、Hindering という4つの観点から分析した。テクノロジーはモノ作りの可能性を広げ、新たな製品やコンテンツを下地とする文化は SNS などを通して容易に世界中に広がるようになった。この変化は便利で素晴らしいものだが、全世界に画一的な文化が広がり、地域固有の文化が隠されてしまう可能性にも目を向けねばならない。一方で、豊かで多様な文化を保存するためにテクノロジーがどう活かせるか、悲観すること無く考える必要がある、という議論も出た。

当初のコンセプトではディスカッションの内容を紙に書き「教科書」としてまとめる予定だったが、ディスカッションそのものが非常に盛り上がったため、文章化の時間を取るのはもったいないという判断から、自由な形式で全体に共有するだけに変更した。それでもなお、議論は予定していた企画全体の終了時間を大幅にオーバーしてしまうまで白熱した。班により内容は様々であったが、いずれも本カンファレンスで学んだことや考えたことを踏まえ、また HCAP 以外の東大生からの視点も加えた上で、現代社会について包括的な議論ができたと思う。

<在日米国大使館レセプション>

日時：3月20日（金） 18:00～20:00

場所：在日本アメリカ大使公邸

■企画内容

- ・日米間の学生留学を促進するためのレセプションへの参加

■企画詳細と総括

アメリカ大使館よりご招待を頂き、日米の学生交流に関わる方々が多く参加される大使公邸でのレセプションに、学生の参加者として参加した。絢爛豪華な大使公邸に感銘を受けつつ、下村文部科学大臣のスピーチを伺ったり、キャロライン・ケネディ大使とお話をさせていただいたり、貴重な経験ができた。多くの方々から国際交流や留学についてのお話を伺うなかで、私たちのような学生の国際交流を応援し期待をかけてくださっている方々の思いを実感し、カンファレンスでの経験を将来にわたって有意義なものとしなければと身の引き締まる思いであった。



8日目：茶道体験、高校生交流企画

<茶道体験>

日時：3月21日（土） 10:00～12:00

場所：東京大学駒場キャンパス「柏陰舎」

■企画内容

- ・東京大学裏千家茶道同好会のご協力のもと、ハーバード生に対し茶道の作法の教授、お手前の披露をしていただいたうえで、点茶をハーバード生に体験してもらった。

■企画目標

- ・茶道という伝統文化の体験を通じて、日本に対する理解をハーバード生に深めてもらうこと。

■企画詳細と総括

東京大学内の柏陰舎にて、東京大学裏千家茶道同好会のご協力のもと本企画は実現した。ハーバード生はその場で点てた抹茶や、美しい和菓子に舌鼓を打ちながら、茶道の作法を学び、その後の点茶体験では裏千家茶道同好会の皆様を中心に HCAP メンバー、ハーバード生が円になり、リラックスした雰囲気の中で抹茶を点てた。最初はぎこちなく抹茶を点っていたハーバード生も、だんだんコツを心得、東大生に抹茶を振る舞ったり、抹茶の点て方を教えたりしていた。今回の企画は、ハーバード生が荘厳な雰囲気を持つ茶室の中で日本の美意識、価値観を共有する機会となり、東大生にとっても自国の文化を捉え直す機会となった。



< 高校生交流企画 >

日時：3月21日（土） 14:30～19:00

場所：T's 渋谷フラッグカンファレンスセンター

■ 企画内容

- ・東大生、ハーバード生、高校生の計50名程度の人数で、大学生活や将来についてのディスカッションを行った後、自由な交流の場を設けた。

■ 企画目標

- ・東大生とハーバード生、高校生間の交流を促し、高校生に将来の大学生活について具体的なイメージを持たせるとともに、自らの将来について再考させる機会を設けること。

■ 企画詳細と総括

アイスブレイク・スピーチ・グループディスカッション・フリーインタラクションの4部構成。

① アイスブレイク

質問が50個記載されたプリントを配布した。参加者同士で質問しあい、その都度相手の名前を聞くという形式で行ったが、このセッションで参加者の緊張はほぐれたようだった。

② スピーチ

このセッションでは、大学で選択した興味深い授業、現在熱意を持って取り組んでいる課外活動、将来の展望をテーマに、東大生3名、ハーバード生8名に参加者の前でスピーチをしてもらった。高校生が大学生の話真剣な表情で聞き、メモを取っている姿が印象的であった。

③ グループディスカッション

東大生、ハーバード生、高校生計10名程度の班に分かれ、まずは大学生が今の大学に入学した背景と中高時代の印象深い経験、将来のビジョンをテーマに話し合った。これにより、高校生に大学生活、および大学生の具体的なイメージを持ってもらうことを目指した。大学生は先述のテーマについて高校生に熱心に伝え、高校生も大学生に積極的に質問をしていた。セッション全体を通じて、高校生はハーバードおよび東大の学生生活、および大学生の具体的なイメージを育めたようだった。

次に”Indicate an event or a person who has had the most significant influence on you and describe that influence.”という問いに対する回答を各班で共有し、回答に対する疑問点をぶつけあった。このセッションの目的は参加者に対し、過去の行動や人との出会いを何らかの形で意味づけることの体験をしてもらい、その重要性を伝えることであった。中には回答に詰まってしまう高校生もいたが、みな回答しようと努力しており、企画を通じて目的は少なからず達成できた。

④ フリーインタラクション

今企画を通じて大学生に聞けなかった高校生の疑問を解消するため、そして参加者間の交流を深めるためにこのセッションを設けた。参加者は皆積極的に話しており、会場全体が活気に満ち溢れていた。結果として参加者間では交流も生まれ、高校生は自分の大学生活や将来について考える機会とできたようだった。東大生、ハーバード生との交流を通じて高校生の将来に何かしら良い影響を与えられたとしたら本望である。

9日目：東京散策、ハーバード生帰国



<東京散策>

ハーバード生がボストンへと発つ最後の日は、企画をあらかじめ設定するのではなく、柔軟なスケジュールにし、より自由に交流を深める時間とした。この日は、もっと東京の街を満喫したいとのハーバード生の強い思いと、東京を十分に楽しんでほしいという東大生の思いから、さらに東京を観光することになった。

まずは東京駅に向かい、そこから皇居・丸の内周辺を散策するグループと原宿をもう一度訪れ買い物を楽しむグループとで二手に分かれた。皇居・丸の内に出かけたグループは、丸の内のビル街を散策して楽しむと共に、皇居では美しい木々に囲まれた庭園で大都会の東京の少し意外な一面を知ることができた。一方原宿を訪れたグループでは、ハーバード生と東大生の女子2人ずつで思いきり買い物を楽しみ、竹下通りを余すところなく満喫することができた。

<ハーバード生帰国>

東京散策の後は全員で成田空港に向かった。空港では一人一人が別れのハグをし合い、感謝を伝えあって再会を約束した。最後に集合写真を撮り、いよいよお別れとなった。ハーバード生の中には涙交じりに出発ゲートに向かう者も見受けられた。その姿を東大生が見送ることを以て、9日間の東京カンファレンスが無事終了した。



HCAP 東京カンファレンス 2015 総括

私達 HCAP 東京大学運営委員会は、今年度の東京カンファレンスを通じて達成すべき理念として、以下の二点を掲げました。

1. 各参加者が将来の社会に対して希望と責任を抱くこと
2. 参加者の人生を変えうる、個人の根本的な価値観の交流を創出すること

この二点を達成することを最終的な目標として、九日間の「東京カンファレンス」を企画し臨みました。

1つ目の「各参加者が将来の社会に対して希望と責任を抱くこと」は、激変する現代社会を俯瞰するカンファレンスを通じて、参加者が現在の社会の最先端の問題を認識しそこに対して当事者意識に近い責任感を抱く。同時に、問題の解決につながる科学技術の可能性に希望を抱くことを願って掲げました。

カンファレンスを終えた今、振り返ってみると、この理念が達成されたという手ごたえを少なからず感じています。実際に、カンファレンス中の各企画を通じ、参加者は新しい知見を得、変容しつつある現代世界に対して理解を深めました。特に、福島で行ったフィールドワークは、ハーバード生のみならず東大生にとっても強烈な体験となりました。実際に被災地の現状を自分自身の目で見ることで、単に現状を理解するに留まらず、事故後の現代社会を生きるものとしての当事者意識を強く抱く機会となりました。一方で、深刻な被害の現状にショックを受けると同時に、現地の人々の復興への力強い思いに触れることで、被災地の未来に希望を抱くこともできました。実感のわからないニュースや抽象的な議論などではない「現実」に触れた私たちは、漠然とした焦燥感に囚われることなく、あるいは無責任に楽観することもなく、責任ある希望を抱く第一歩を踏み出せたのだと感じています。

2つ目の「参加者の人生を変えうる、個人の根本的な価値観の交流を創出すること」は、文字通り東京カンファレンスを通じてハーバード生と東大生が互いの価値観の相違を知り、そこから人生を変えうるような「気づき」を得ることを願って掲げられました。この理念に基づき、私達は単なる一時的な「国際交流」に受動的に参加するだけでは簡単に達成できないような、個人としての参加者同士の交流を目指しました。東京カンファレンス中は、互いの価値観を知る機会として、ディスカッション企画を多く設け、各企画についてもディスカッションのトピックで参加者の価値観の違いが最大限に出るような工夫をこらしました。しかしながら、カンファレンスの運営を担いながら、交流の機会を活かきることの難しさを痛感しました。参加者であると同時に運営者であるという、両者のバランスの取り方は非常に困難でした。この困難さは、カンファレンス中にも問題提起され、改善への動きやハーバード生からの積極的な働きかけもあり、最終的には東大側のメンバーも十分にハーバード生と交流することが出来ました。さらには、ハーバード生とそれまでの人生や将来について深夜まで話し込む場面も見られ、これこそが目指していた価値観の交流であり、理念が達成されていると感じる場面もありました。理想とする深い交流の実現の難しさを感じながらも、最終的には理念を達成することが出来たと感じています。

理念の達成に関しては、概ね成功であったと自負できる東京カンファレンスでした。しかし、実際に9日間をハーバード生と過ごしてみて、自分達に欠けていたものに気付かされる部分もありました。国際交流とは、参加する両者がいて初めて成り立つという点です。私達は準備段階からひたすらに自分達

のやりたいことを見つめ、企画に落とし込むことに注力していました。そこには、ハーバードから東京に15時間かけてやってくるハーバード生の視点が欠けていたように、今振り返ると感じます。この気付きはハーバード生を目の前にして初めて得られたものでした。私達はハーバード生の満足度に気を配っていただろうか、彼ら一人一人の顔を思い浮かべていただろうか、と今思い返すと、企画段階での改善の余地を感じます。私達が、ハーバード生を迎えて初めて気づいたこれらの反省点を、新たにカンファレンス立案に臨む後輩には十分に活かし、より両者にとって満足できるカンファレンスを創りあげて欲しいと、老害ながらも心から願ってやみません。

末筆ながら、東京カンファレンス 2015 の実現へご支援・ご協力いただいた全ての方へ深く感謝申し上げます、本総括の結びとさせていただきます。

2015年3月末日

HCAP 東京大学運営委員会 9期

代表 堀澄紀

渉外 影近裕紀

HCAP 東京カンファレンス 2015 会計報告

<収入>

項目		金額 (円)
寄付金	株式会社ベネッセコーポレーション	1,300,000
寄付金	駒場友の会	382,000
寄付金	東日本旅客鉄道株式会社	200,000
寄付金	HCAP Tokyo alumni	100,000
寄付金	江川 雅子 様	10,000
寄付金	杉本 文秀 様	10,000
寄付金	関 成孝 様	10,000
寄付金	長島 雅則 様	10,000
寄付金	頼成 貴彦 様	10,000
寄付金	黄 鍾圭 様	10,000
寄付金	Tad Johnson 様	5,000
計		2,047,000

<支出>

項目	金額 (円)
交通費	599,168
食費	288,943
宿泊費	348,816
企画費	410,014
物品費	92,435
雑費	32,500
計	1,771,876

<収支差額>

項目	金額 (円)
計	275,124

※会計支出内訳詳細は、別途関係者の皆様にお送りいたします。

※収支差額は来年度以降の活動に引き継ぎます。

以上